

■うなずきのお祖師さん 縁起

作:大覚大僧正妙実上人(当山開基)と伝わる

實相寺本堂の右側須弥壇に“うなずきのお祖師さん”をお祭りしております。正式には、「點頭宗祖尊像」と言います。「點頭」は、「うなづく」という意味)

元和元年(1352)頃、京都では雨が降らず、飢饉が起こっております。そこで、北朝 後光厳天皇は、妙実上人に雨乞いの祈禱を命じました。

妙実上人は、三百余人の僧衆を集めて山城国桂川のほとりの鍋ヶ淵で雨の祈りを行うことにしました。日蓮上人のお祖師像を雨の祈禱の御本尊として祈ったところ、お祖師御像がうなずかれました。すると、不思議なことに雨が降ったと伝わっております。

後光厳天皇はこの功績を認め、延文3年(1358)日蓮聖人には大菩薩号を、日像上人には菩薩号を、妙実上人には、大覚大僧正を下賜されました。その後、妙実上人は、この地に實相寺を建立したと言いつわっております。(貞治3年(1364))

また、江戸時代には、江戸に「出開帳」を行った記録があります。

實相寺では、年1回御会式の時だけ、日蓮聖人、妙実上人のご威徳を偲んでご開帳いたします。